

総論

満点	70点	目標得点	53点	試験時間	60分	偏差値	国際政経:73 政治:74 経済:72	
大問数	5	小問数	60 (5問は2つ解答選択するので計65解答数)					
【解答形式】		選択式	40/65問	記述式	25/65問	論述式	0/65問	
【問題難易度】		C	7/65問	B	17/65問	A	41/65問	
※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す								

Topics

- 1：約1分で1問を解かねばならない。基本項目は即答できるスピードが必要。
- 2：総問数はほぼ昨年と同じ。一部難問も含まれるが基本問題ができれば合格点には届く。
- 3：重要語句に関する一歩踏み込んだ内容を正誤判定できるかが勝敗を分ける。

こんな力が求められる！

【前年度合格最低点（3科目）】173 ※総配点230（得点率75.2%）

【前年度受験者平均点】43.85 ※地歴・公民・数学の配点70（得点率62.6%）

昨年度と同じく、すべての大問において正誤問題・語句選択問題などのマークシート式と、リード文中の穴埋めを中心とした記述式との複合的な問題で構成されている。問題の難易度は、昨年並みなので受験者平均点は60%前後だと予想される。早稲田大学の場合、偏差値法を用い、受験者平均点=50%の得点に換算する学部が多いが、政治経済学部の場合は素点で合格判定をおこなっていると考えられる。したがって、合格するためには三科目合計で75%以上の得点が必要になってくる。上記の平均点から、英語・国語よりも世界史の平均点のほうが低いことが予想できるので、世界史では少なくとも65%以上、できれば75%（約53点）前後得点することができればアドバンテージをとることができるだろう。では、今年度の問題でどのような力を身につければ75%の得点を取ることができるのかを考えていこう。

まず、小問65問中、非常に細かい知識や高等学校の学習範囲を超えていると思われる知識を問う難問は7問程度に過ぎない。この7問が答えられなかったとしても80%台後半の得点率になるため、難問を解く必要は全くないといえる。確実に基本問題を得点し、75%前後の得点をとることが合格への近道であることを意識してもらいたい。特に記述問題は全体的に易問ばかりなので、25問中21問くらいは正解しておきたい。政治経済学部の問題で受験生が苦手とするのが正誤問題と歴史事項の並べ替え問題だろう。正誤問題に関しては、用語集の用語説明のなかから問われる問題も多いので、単語の丸暗記ではなくその言葉の意味をしっかりと理解しておくことが大切である。用語の中身に関しては普段の授業中に講師が詳しく解説しているはずなので、普段から気を配っておくことが大切である。また、並べ替え問題に関してだが、重要年号の暗記は基本なのでしっかり勉強しておこう。しかし、「歴史の流れ」を理解していればすべての年号がわからなくても解ける問題が多いので、単純に丸暗記するだけではなく、流れを理解することに重点を置いた勉強をすることが攻略の鍵となってくる。

【I】

予想配点	14/70 点	時間配分の目安	12/60 分
出題分野・テーマ	アジア史		
出題形式	正誤、選択式、記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
A	1：A 2：B 3：A 4：B 5：C 6：A 7：A 8：B		
B	1：B 2：A 3：A 4：A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・3月期②1, 2回 ・4月期4回 ・6月期3回 ・夏期講習「現代史」 ・冬期講習「中国周辺史」		

●本大問の特徴・概要

アジアの大河をテーマとして、アジア全域に渡る広い地域、そして時代的には古代から現代まで幅広い時代に関して問う問題である。地域的には、受験生が苦手としやすいインド史や東南アジア史も含まれているので、そこで点数を稼げるかが勝負である。苦手な範囲を作っては早稲田の世界史には対応できない。全範囲網羅することが大切である。

●注目すべき小問

設問A, 2 (B：合否を分ける問題)

二段階に問う問題。まず、下線部bの都が「バグダード」だとわかって第一段階クリア。そしてバグダードに関しての正誤判定ができて第二段階クリアといった問題である。第一段階クリアは基本事項なので大丈夫であろう。第二段階に関してだが、正誤問題は間違い探しをしていくのが基本ということを肝に銘じてもらいたい。そうするとロとニは基本知識で解答から除外できるので、イとハの正誤判定が勝負となる。イに関しては内容が細かいので判定に困るところだが、ハの記述はセルジューク朝に関しての基本事項。したがって答えはハとなる。イの記述のように自分が知らないような細かい内容が問われても焦らないことが大切、バグダードは円形都市である。落ち着いて基本事項を確認していけば、答えは導ける。

設問A, 4 (B：合否を分ける問題)

イブン=バットゥータに関する問題は入試頻出なので要注意。『三大陸周遊記』という旅行記を書いているので、彼が訪れた主要な旅行先は覚えておかなければならない。最低限、①アフリカのマリ王国、②インドのトゥグルク朝（デリー＝スルタン朝3番目）、③中国の元の3つは覚えおこう。これを知っていれば正解に辿り着くことができる。

設問A, 5 (C：難問)

ラオスに関する問題だがこれは厳しい。ラオスでランサン王国が分裂した後に成立した王国がルアンプラバン王国でその都がルアンプラバン。ここができなくても合否には関わらない。

設問A, 8 (B：合否を分ける問題)

長江流域の穀倉地帯の変遷について問う問題。宋代は長江下流域が穀倉地帯となり「蘇湖（江浙）熟すれば天下足る。」と称えられ、明・清代には「湖広熟すれば天下足る。」と称えられ長江中流域に穀倉地帯が移った。これは下流域で綿花などの商品作物の栽培が盛んになったからだという理由も覚えておこう。

【Ⅱ】

予想配点	10/70 点	時間配分の目安	8/60 分
出題分野・テーマ	古代・中世ヨーロッパ		
出題形式	選択式、記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す		
A	1 : A 2 : A 3 : A 4 : A 5 : A		
B	a : B b : A c : B d : A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・ 3 月期① 1, 4 回 ・ 5 月期 1, 3 回 ・ 夏期講習「文化史」		

●本大問の特徴・概要

中世ヨーロッパを中心とした出題で、リード文中の単語の穴埋め（選択式）と一問一答形式の記述問題で構成されている。内容的には平易なので確実に得点しておかなければいけない大問である。文化史からの出題が 2 題あるのでここで点差がつくだろう。いずれも基本事項なので文化史も疎かにせずしっかりと学習することが大切である。

●注目すべき小問

設問 A, 3 (A : 正答すべき問題)

文化史からの出題。ポリビオスは『歴史』を著したということが基本事項になるが、本問は彼の歴史観について理解していないと正答には辿り着けない。政体循環史観という彼の歴史観は用語集の頻度的には低いが、早稲田に受かるためには中身の部分までおさえておかなければならない。日ごろから用語集等を使って内容まで理解することが大切である。

設問 B, a (B : 合否を分ける問題)

新王国時代のファラオで入試頻出なのはアメンホテプ 4 世であるが、本問は少しマイナーなラメス 2 世について問う問題である。ラメス 2 世に関してはヒッタイトと戦ったカデシュの戦いをおさえておきたい。その後、カデシュ条約という最古の国際条約を結んだことも補足事項として覚えておこう。

【Ⅲ】

予想配点	14/70 点	時間配分の目安	14/60 分
出題分野・テーマ	西欧諸国の海外進出		
出題形式	正誤、選択式、記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
A	1：B	2：B	3：B 4：B 5：A 6：B 7：C
B	1：A	2：A	3：B 4：A 5：A 6：A
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・5月期4回 ・6月期1,2回 ・7月期1回		

●本大問の特徴・概要

西欧諸国の海外進出について問う問題。正誤問題が6題含まれるのでここでいくつ正答を得られるかが勝負の分かれ目。センター試験に比べると記述内容が細かいように思えるが、基本知識さえあれば正答を導きだすことは十分に可能な問題である。初見だと知らない知識に出会ったときに焦ってしまいがちなので、過去問を解いてそのような状況に慣れておくことが必要である。なお、記述問題に関しては平易な問題なので全問正解を目指してほしい。

●注目すべき小問

設問A, 2 (B：合否を分ける問題)

単語の丸暗記では解けない問題だろう。ナポレオンとハイチの関連性を理解しておかなければならない。ナポレオンは1803年にミシシッピ以西のルイジアナをアメリカに売却しているが、これはハイチの独立運動が活発になり独立達成が濃厚になってきたことが理由の一つである。フランスはルイジアナをハイチ支配の拠点として利用しており、それが用済みとなったことで非常に安い値段でアメリカに売却した。このような知識があれば正答を導きだせる。普段の授業をしっかりと聞き、内容までおさえておくように。

設問A, 3 (B：合否を分ける問題)

一見難しそうな問題だが、基本知識であっさり解ける。オランダが東インド会社の拠点としてジャワ島のバタヴィアに商館を建設したという知識は知っておかなければならない。そうするとハの記述の「スマトラ島」が誤りとなる。特徴・概要でも書いたが一見難しそうな問題でもこのように基本知識だけで解ける問題はたくさんあるので、焦らずに冷静に間違い探しをしていくことが大切である。

設問A, 7 (C：難問)

正文を3つ探して答えを導くことは可能であると思うが、正文の内容もやや細かい内容が多く、誤文としての決め手も内容が細かい。ここはとれなくても悲観することはない。リュッツェンの戦いはスウェーデン王グスタフ＝アドルフが傭兵隊長ヴァレンシュタイン指揮下の皇帝軍を破った戦いなので、これが誤文の決め手となる。

【IV】

予想配点	17/70 点	時間配分の目安	14/60 分
出題分野・テーマ	クリミア戦争と南北戦争		
出題形式	正誤、選択式、並べ替え、記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C 難問、B 合否を分ける問題、A 正答すべき問題、を示す		
A	1 : A・C	2 : A・C	3 : A・A 4 : A・C 5 : A 6 : B・A 7 : A
B	1 : A	2 : A	3 : A 4 : A 5 : A
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連			
・夏期講習「近代史」			

●本大問の特徴・概要

大問5題中一番難易度が高いのが本問である。特に正誤問題や選択問題での答えを2つ選ぶ問題に受験生は苦戦すると思われる。そこで、このような問題に対しての対策である。まず、配点的に考えると完全解答ではないように予想される。上記の難易度を見てもらうとわかりやすいと思うが、正答2問のうち1つは基本事項、そしてもう1つは難問といった傾向が見えてくる。したがって、少なくとも基本事項の正答だけは確実に得点し、難問は落としても仕方ないというスタンスで取り組んでいくことが攻略の鍵となってくるだろう。

●注目すべき小問

設問A, 1 (A : 正答すべき問題・C : 難問)

上記の記述の通り少なくとも一つは最低限正答しなければいけない。本問に関してはミットは落としてはいけない。もう一つの答えになるアーヤーンはオスマン帝国の地方有力者を指す言葉。ただし、アーヤーン単発で答えとするには少々細かい知識なので落としても気にすることは無いが、ムラート・改革宴会・ボグロムの正確な知識があれば正答を導きだすことは可能である。

設問A, 2 (A : 正答すべき問題・C : 難問)

口は正答してほしい。①の戦争がクリミア戦争だと見抜くことが条件となるが、これがわかればパリ講和会議は基本知識。そして、厳しいのはニのトルストイに関する記述。トルストイに関しては代表作『戦争と平和』をおさえておけば充分。

設問A, 4 (A : 正答すべき問題・C : 合否を分ける問題)

リンカンが共和党出身なのは基本知識なのでは正答してほしい。アメリカ大統領は名前と政党をセットで覚えておくことが大切である。ホに関してだが、グレイ内閣は1833年に奴隷制を廃止しているが、この際奴隷所有者に政府が保証をおこなうことを条件として法律を制定した。細かい内容なので、ここがとれなくても悲観しなくてもよい。

【V】

予想配点	15/70 点	時間配分の目安	12/60 分
出題分野・テーマ	ウィンストン=チャーチルの生涯		
出題形式	正誤、選択式、記述式		
小問別難易度	※問題難易度：C難問、B合否を分ける問題、A正答すべき問題、を示す		
A	1：A 2：B 3：A 4：A 5：A 6：B 7：C 8：A		
B	1：B 2：A 3：A 4：B 5：C 6：A		
お茶ゼミカリキュラム・テキストとの関連	・夏期講習「現代史」 ・9月期1～4回		

●本大問の特徴・概要

帝国主義時代から現代史までを問う問題。特に現代史は浪人生と現役生で差が出る範囲なので、しっかりと勉強しておかなければならない。内容的には平易な問題も多いので取れるところでしっかりと得点を稼いでおきたい。

●注目すべき小問

設問A, 7 (C：難問)

現代史は1年ごとに重要な出来事があるので特に年号の暗記に力を入れなければいけない範囲である。スターリンが死去した年号がわかった上で第一段階クリア。1953年という年号はおさえておかなければならない重要年号である。そうすると、イのスターリン批判の1956年は重要年号、そしてロのコミンフォルム解散はスターリン批判との関連事項なので正答から除外できる。さらにハのジュネーヴ4巨頭会談も1955年に開催されたということは基本知識なので除外できるだろう。そうすると勝負になってくるのが、ニ・ホの取捨になってくるわけだが、ホで引っかかった受験生も多かったのではないだろうか。ホの日ソ国交回復は1956年のことなので正文だが、日本についての知識は盲点となりやすいので要注意。昨今の入試では日本との関連事項を問う問題も徐々に増えてきているので、最低限用語集の赤字レベルの知識は身につけておきたい。したがって答えは二になるわけだが、東側の軍事機構の名称がワルシャワ条約機構だとわかっていたら「ブダペスト」という部分で正答とすることができる。ワルシャワ条約機構の成立が1955年なので、年号は本問の正答を導くための決め手にはならない。したがって難問とした。

設問B, 5 (C：難問)

第二次世界大戦時にソ連がバルト三国を併合し、フィンランドに攻め込んだのは基本事項ではあるが、同時期にベッサラビアを併合したという知識は少々細かい。しかもそのベッサラビアをどこの国から併合したのかというのが問われているので難問とした。答えはルーマニアである。